

## **第 38 回宮崎海岸市民談義所 議事要旨**

日時：平成 29 年 10 月 9 日(月・祝) 13:00～13:50、15:00～16:20

※13:50～15:00：現地見学（移動含む）

場所：佐土原総合文化センター研修室、現地（大炊田海岸）

参加者：

□市民：18名

□宮崎海岸市民連携コーディネータ：

吉武教授(九州工業大学)

高田准教授(神戸高専)

□行政関係機関：

(国)宮崎河川国道事務所、宮崎海岸出張所

(県)河川課、自然環境課、宮崎土木事務所、中部港湾事務所

(市)土木課、佐土原総合支所

実施内容：

事務局より開会の挨拶、国、県、市の出席者の紹介を行った後、高田宮崎海岸市民連携コーディネータ(以下「コーディネータ」)の進行により議事が進められた。

まず、事務局より「宮崎海岸の侵食対策の概要」、「第 37 回宮崎海岸市民談義所の振り返り」の説明及び「第 16 回委員会等の結果」に関する報告をし、質疑を受けた。引き続き、事務局より「今後の予定」、「宮崎海岸の現状」を説明し、質疑を受けた。

その後、現地(大炊田海岸)に移動し、現地を見学するとともに浜幅を計測した。再び佐土原総合文化センター研修室に移動し、本日の現地見学・浜幅の計測の簡単な振り返りを行った後、高田コーディネータの進行により議事が進められ、「浜幅 50m について」、「現地を見て感じたこと」について談義した。

※会議の開催前 30 分程度で、従前より参加している市民と初参加の市民との知識のギャップを埋めるとともに、市民談義所への理解を深めるため、来場者の質問に回答する相談窓口を開設した。

**～「宮崎海岸の侵食対策の概要」、「第 37 回宮崎海岸市民談義所の振り返り」、「第 16 回委員会等の結果」について～**

「宮崎海岸の侵食対策の概要」、「第 37 回宮崎海岸市民談義所の振り返り」の説明及び「第 16 回委員会等の結果」に関する報告をした。

[参加者]

- ・第16回侵食対策検討委員会を傍聴して、事業が進展してきたと感じた。
- ・サンドパックに不等沈下が起こったときにどうするか、ということについては今後もみんなで談義しながら進めれば良いと思う。

～「今後の予定」、「宮崎海岸の現状」について～

事務局より「今後の予定」、「宮崎海岸の現状」について説明した。

[参加者]

- ・説明資料 p.17 の委員会報告で総合土砂管理についての説明があったが、今後、どのような計画で進めていく予定であるのかを示して欲しい。
- ・広報については、美しくする会では海岸清掃を年2回ほど実施しており、400～500名参加しているので、そのような人たちの意見を取り入れると良いと思うので検討して欲しい。

[コーディネータ]

- ・総合土砂管理については委員会でも意見が出ていたので補足説明する。現在は、足りない砂を養浜で人為的に補っているが、並行して海岸、河川、山において一体的に砂の動きについて議論し、海岸に供給される砂を増やしていくための総合土砂管理の取り組みをこれからどのように進めていくのかについて検討する必要があるという議論があった。

[事務局]

- ・総合土砂管理は、中部流砂系（耳川、小丸川、大淀川、一ツ瀬川）で検討しており、その中でも耳川は検討が進んでいる。宮崎海岸の少し北側に位置する小丸川についても検討を進めている。中部流砂系委員会では、方策や長期的なメニューなどを検討しているところである。それらの内容を整理し、短期的なメニューの中からどういったものができるのかを今後提示していくことは可能である。

[参加者]

- ・耳川で成功しているとのことだが、宮崎海岸は一ツ瀬川が主たる土砂供給源になると思う。これについて杉尾先生の御意見を伺いたい。

[参加者：中部流砂系委員会委員長]

- ・個人的な見解、ということでコメントさせていただく。

- ・総合土砂管理は、宮崎県と国交省と一緒に協議しており、小丸川については、報告書に整理するという事になっている。
- ・耳川については、平成 17 年の出水時に諸塚村で商店街が壊滅的に被災した。その対策を検討する中で、耳川の沿川では斜面崩壊が多く起こっており、将来的に土砂が多量に川に出てきて、川床が上がり、河川整備をしても諸塚村の商店街がまた被災することが懸念された。
- ・県の土地利用一体型水防災事業だけでは対策が困難であったため、下流の九電の山須原ダムと西郷ダムの 2 つを改造して諸塚村に対して影響がでないように工事を進めている。
- ・西郷ダムの工事は完了し、台風 18 号のときに土砂を下流側に出すという通砂運用というのを実施し、今までダムで土砂が止まっていたが、下流に出ていくようになり、下流の状況が本来の川の姿にだんだん戻りつつあるということを知っている。
- ・ダムが土砂を溜めることによって下流の環境が悪くなるというのは明らかではある。それをどのように下流に出すかについて、技術的、経済的、社会的に考えて可能な解として、耳川の場合には九州電力がダムを改造するという事で一つ事例を示したと理解している。

#### [コーディネータ]

- ・総合土砂管理については、ほかの場所でやっている取り組みの情報をしっかり共有しながら、宮崎海岸にかかわる総合土砂管理をどう進めていくのかという議論がこれから必要になってくるかと思う。
- ・広報については、たくさん人が来る海岸清掃のときなど、市民の方がやっているいろいろな機会を通じて海岸事業のことを広報していただければと思う。
- ・委員会、効果検証分科会でも、市民が少しずつ海岸の変化を実感していることはとても大切なことと認識されており、市民が見られている海岸の状況を積極的に侵食対策事業に組み込んでいくことは重要と思う。
- ・市民が普段海岸を利用しているときに気がついた情報が価値を持つこともあると思うので、現地を見ながら共有していきたい。

#### **談義 ～「浜幅 50m について」、「現地を見て感じたこと」～**

現地(大炊田海岸)に移動し、現地を見学するとともに、浜幅を計測した。現在の浜幅が 50m に近いことと、浜幅 100m 程度の位置まで浅いこと(スタッフが海に入ったところ、水位はひざ下程度)を共有した。その後再び研修室に移動し、本日の現地見学・浜幅の計測の簡単な振り返りを行い、「浜幅 50m について」、「現地を見て感じたこと」について談義した。

参加者が付箋紙に意見を記入し、関連する感想・意見等をコーディネータがキーワード毎に分類し、談義した。

## ○今日の海岸の様子について

### [参加者]

- ・今年住吉海岸(動物園東)で浜降りのお祭りが再開されたが、昨年度からすると今年は非常に砂が付いていると感じていた。さらに、今日見た場所(大炊田海岸)は、地区の方々の遊び場や、祭り、漁業等、多用途に使われているとのことだが、100m近くまで砂浜が回復している状況でありびっくりした。来年には住吉海岸も同じように砂浜が回復していれば、浜降りのお祭りのときに子供たちも海に浸かれるかもしれないと楽しみが大きくなり、期待している。
- ・八幡宮の夏祭りは、朝6時半頃に神社を出て、大きな御神輿1基、子供御神輿3基を海岸まで持っていき、そこで禊を受ける。昔は、御神輿を海岸近くで並べ、宮司が海につかって禊を受けられたと聞いている。
- ・今年、海に入ることはできなかったが、水際まで御神輿を担いでいき、その砂浜で御神輿を並べて神事を行った。広い砂浜ができたということで、子供たちもはしゃいでおり、来年はより楽しみにしている。毎年7月の海の日、第3日曜日に八幡宮の夏祭りがある。皆さんにもお祭りを見ていただければと思っている。

### [参加者]

- ・現地を見て、侵食は少しあるが、大幅に削られていることはないということを感じた。また、埋設護岸によって浜崖後退が抑止されていることを実感できた。

### [参加者]

- ・現地海岸で見る50mは、50m走で走る距離と比べ、周りのスケールが大きいので意外と狭いなと感じた。その一方で遠浅であるということも実感でき、目に見える感覚とは違うということを感じた。

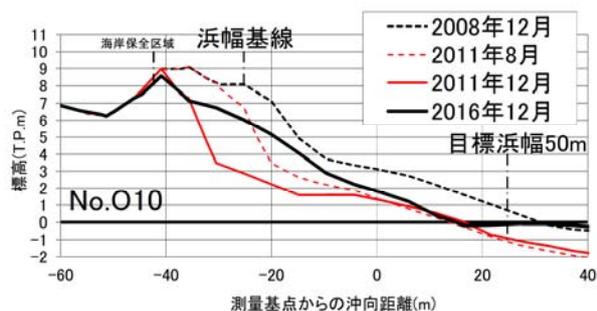
## ○地形について

### [参加者]

- ・現在の浜崖の頂部付近の平らな部分は、昔はもう少し広がったと思う。また、その陸側は高さが低くなっていた。

### [事務局]

- ・(右図をスクリーンに投影しながら説明)2008年が直轄化当時に決めた線である。2011年8月には少し砂浜が削られており、同年12月には台風でさらに削られている。2016年12月はサンドバック設置後でもあり、砂



浜が少しせり出してきて、今日見たように少し浅くなってきている。2016年12月はまだ深かったが、今日は人が立てる状態であった。高さとしてはT.P.+7mまで整備し、そのうしろは擦り付けている。砂丘は高さがT.P.+7m以上あれば宮崎海岸の計画外力に対しては越波しないため、これを目標に整備をしているところである。あくまで今日の結果ではあるが、砂浜が少しずつ上がってきているような感じである。高さT.P.+7m以上の部分が、ある程度の幅があれば問題ないと考えている。

### [参加者]

- ・浜の斜面の角度が急に感じた。私はこどもの国や木崎浜といった、昔の浜そのままの状態でも50m以上の普通の海岸がある、宮崎市南部のウミガメの調査を担当しているので、それらの場所と比べると、急な斜面になっている感じがして、少し違和感があった。ただし、昔に比べたら、ちゃんとゴミもついていてカニ等もいたので、サンドバックを設置した当初の常に波に洗われてゴミも残らないような浜とは違う。
- ・斜面があるため、養浜が継続的に加えられていたら維持できるが、養浜がなくなった後はまた波にさらわれてなくなる可能性もあるのではと感じた。急に斜めになっているのでずり落ちていくのではないかと感じた。

### [参加者]

- ・侵食を初めて見てえぐられている感じがよくわかった。海岸のことはよくわからないが、青島海岸の平らな感じと比べるとぼこぼこしていると感じる。また、ロープが張ってあり入れない場所があるなど、砂浜の侵食とはこういうものなのだとわかった。

### [コーディネータ]

- ・砂浜がない時期を知っている人は、戻ってきたなと感じ、初めてこの海岸を見た人は、侵食されていることを実感する。そういう景観が今のこの海岸の状況と思う。

[参加者]

- ・砂浜が狭くなった。なくなった場所もあると感じた。佐土原町に来た昭和 40 年代の終わりはもっと砂浜が広がった。そういう目で見ると狭くなっている。
- ・フェニックスの海側をみると、ゴミが砂丘を越えて低いところに流れ込んでいいる箇所がある。波が越えるようになるとアカウミガメの自然ふ化が困難になるのではないかと心配している。

[参加者]

- ・侵食対策を実施している海岸は干満での砂浜幅の差が少なく、50m 砂浜が戻ってもそのすぐ沖が深い場合が多いが、今日見た場所は海底が浅い範囲が 50m 程度あったので、この場所だけかもしれないが安心できると感じた。また、浅い箇所が動いているとも聞いたので、今後もしっかり見ていくことはすごく重要と実感した。

[参加者]

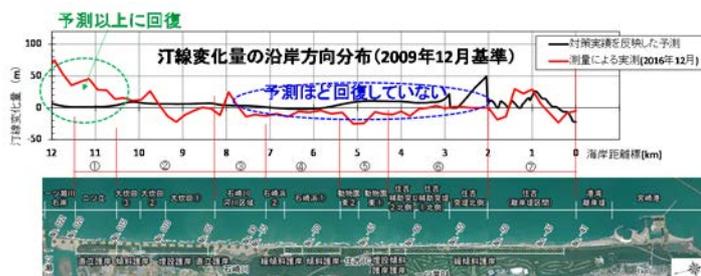
- ・浜幅基線から 100m まで遠浅だったが、あと 30m ほど同じくらいの水深だったように感じた。波が砕けているところはもう少し沖にみえたので、その箇所の水深が 2m ぐらいと考えると、そこから沖側に 30m ぐらいはフラットな感じではと思った。

[参加者]

- ・大炊田海岸は 5~6 年前のかなり浜幅が狭く浜崖も削られたと記憶している。その当時と比べると浜が戻ったなど強く感じている。浜が戻った理由については、これから調べていくということになると思うが、それが事業に反映できればと考えている。

[事務局]

- ・(右図(第 16 回委員会資料 16-I p48)をスクリーンに投影して説明)一昨年は南からの波が卓越したため、北側に砂が移動していると考えている。一方、シミュレーションは北からの波をずっと作用させているため、北側には溜まらない結果となっている。
- ・昨年の調査結果では、波向は北からになったが、エネルギーが小さかったため北側に溜まった土砂が移動しきれっていないと考えている。このようなことから北側で今、溜まっているのは一時的なものと考えている。
- ・今日見た箇所の北側では、少し浜が削られてきているので、当初想定していた



北から南に砂が流れる現象が出てきていると感じている。

- ・このような現象を現場で継続的に計測し、対策の効果検証につなげていくことが必要と考えている。

#### [コーディネータ]

- ・今日、現地で測った場所の北側と南側はサンドバックが少し見えている状態であったがその理由は何か、という質問があるが、このような状況はあるのか。

#### [事務局]

- ・この海岸は複雑な海岸で離岸流も多い。どこでいつ崩れるかは予測ができない。今日見た場所の北側と南側のそれぞれでサンドバックが露出している範囲がところどころに出ている。サンドバックが露出する状態を少なくしていくことがこの事業だと考えており、現地の状況を確認しながら養浜で対応している。自然現象であるため、現場の状況をきっちり確認して対応していくことが重要と考えている。

### ○外力について

#### [参加者]

- ・数年前と比較してかなり海岸線は回復しているかに見えるが、それは養浜の効果なのか、それとも別の影響であるのか。
- ・近辺の風、海岸に近いものではなくて、遠方の風の吹いている対岸距離について過去の台風やいろいろなデータから見積もっていくと、今どういう方向に行っているのかわかると思う。実測の有義波高から逆算して、対岸距離がどの程度にあるのかを出すと海域が変化している要因が何かつかめるのではないかと。

#### [参加者：技術分科会長]

- ・この海岸が今のような状況で、以前に比べればだいぶ回復したように見えるが、ほかのところと比べてみたらどうかという御質問と理解した。
- ・比較する海岸として、例えば一ツ瀬川よりも北側の海岸、さらにもっと北の高鍋の堀之内海岸は長期的に殆ど変わらない状況だと思う。今日見た大炊田海岸は、現在は安定していると思うことができると思う。また、養浜をしつつ、浜崖が削られないように実施してきた効果が徐々に少しずつ見えてきていると捉えることが妥当だと思う。その理由としては、今日見た海岸が非常に遠浅であったことが挙げられる。遠浅であるということは、水面下の地形はだいぶ浅くなってきており、もう一踏ん張り、二踏ん張りすると、おそらく汀線の前進に反映されてくると思う。このことはドローン映像や突堤周辺の地形測量からも推察できると思う。

## ○養浜について

### [参加者]

- ・富田浜でアカウミガメの世話をしている。養浜は現地と同じような砂がいいと思っているがどうか。

### [事務局]

- ・現場で見ていただいたとおり、養浜材はいろいろな川などから持ってきており、きれいな砂もあれば、シルトを含むものや石なども含まれている。ガリー侵食はシルト分が多いと発生しやすいとされている。一方、何かしらを投入しないと侵食が進みサンドパックが露出するため、いろいろな材料を投入しているが、ガリー侵食を発生させないことや、アカウミガメの産卵・孵化については野生生物研究会とも協議しながら考えなければならぬと考えている。

### [参加者]

- ・今年は養浜が土だったからアカウミガメの産卵が少なかったのか。

### [参加者]

- ・アカウミガメについては、上陸数は去年より今年のほうが多い。サンドパックより陸側の盛土での産卵は80~90ぐらいである。ただし、盛土は硬いため、その下側で産卵しているので、移植している。

### [コーディネータ]

- ・全体的には、産卵について、今年は去年よりも多かったということかと思う。場所によっても違うと思う。データを共有してみんなを確認できたらと思う。

### [参加者]

- ・砂にコンクリート殻がまじっていて養浜材料をきちんと選ぶ必要があると感じた。持ってきている砂は河川の浚渫砂などであるが人の頭ぐらいのコンクリートの塊とかまざっていたので、そういうのをどうやったら外していけるのかについて考えていたところである。

## ○植物・生物について

### [コーディネータ]

- ・「養浜区間でのウミガメの産卵箇所が今年は多かった。その理由は」という質問があるが、なぜ多かったのか。

[参加者]

- ・アカウミガメの上陸・産卵は毎年、安定しているわけではなく、1～2年のリズムで多い少ないがある。昨年は少なかったが、それに比べたら今年が多い。上陸数は調査数全体で概ね700～800ぐらい去年より多い。

[参加者]

- ・昔とれたスワプト(コタマガイ)が最近採れていない。今はどうなっているのか。

[参加者]

- ・富田浜ではスワプト(コタマガイ)は採れる。5cmぐらいの貝をとる人が多いようだ。

[コーディネータ]

- ・昔いて最近見られなくなった生物が再びみられるようになったという情報もとても大切なので、コタマガイを確認したらお知らせいただきたい。

[参加者]

- ・スナガニの巣穴が多数見られた。斜面にも平らな面にもたくさん巣穴があったので、安心した。もともと砂浜にいる普通の種類だが、サンドバックのさらの上の砂浜に出てきているため、産卵した後に定着したと思っている。

## ○突堤について

[参加者：技術分科会長]

- ・養浜などの事業の効果が出てきていると私自身は思っている。ドローン映像でみたように、突堤の周りも少しずつ浅くなってきている状況にあるため、突堤を伸ばしていくことが、この先考えていく最も大切な事項と思っている。ただし、それにはいろいろ調整等が必要ということだが、現状はどのような取り組み状況であるのか、どのような展望を持ってみていけばよいのかについて教えて欲しい。

[事務局]

- ・事業はⅢ期に分けて進めている。第Ⅰ期が平成29年度までとなっており、今は突堤と補助突堤①・②に着手した段階である。来年からも事業を推進していくスケジュールになっており、突堤の延伸に向けては、いろいろな関係者と協議を進めているところである。協議事であるため断定的なことは言えないが、現時点では、関係者と協議を進め、平成30年度からの第Ⅱ期に向けて突堤を延伸していくことを考えている。

#### [参加者]

- ・神武天皇は、宮崎で生まれて、第1代の天皇だということは皆さん御存じか。その砂浜がこの海岸である。ところが、砂をあちこちから持って来たり、砂じゃなくて違うものを入れたり、アスファルトを入れたり、いろいろやっているが、初代の天皇の生まれた場所だから、天然の砂浜でしっかりやっていただきたい。
- ・（資料を提示しながら説明）突堤で整備しているから、いろいろ問題が発生する。これは私がやっている工法であるが、自然の形で砂浜をつくることができる。この工法では1年で天然の砂浜に返っていく。これは富田、鹿児島、奄美、延岡でもやっている。
- ・スサノオノミコトは神社にはヒノキを、潮に強いのがクスノキと杉と言っている。こういうような宮崎の歴史をしっかりと踏んだ上で工事をしてもらいたい。渚百選にも選ばれている海岸であるのに、いろいろなものを入れてしまったら、天皇を出した県として寂しい。何でもかんでもやればいいのではない。そうしたことをしっかりと勉強して、砂浜をもって復旧すべきと思う。

#### [コーディネータ]

- ・今の発言で大切と思ったことは、「自然の砂浜をつくっていく」という考え方と思う。具体的な工法については、いろいろな条件があり、現在の工法で進めていることをこれまでも談義所で共有してきたことは改めて確認しておきたい。
- ・一方、自然の砂浜、宮崎の歴史性を海岸事業に反映させる視点はすごく大事であり、自然の砂浜を何とか残していくことについて、目指しているところは同じと思う。

### ○土砂管理について

#### [事務局]

- ・総合土砂管理の河川部分については中部流砂系委員会で進めている。また、海岸部分についてはいろいろな場所に砂が溜まっている状況もあるため、どうやって活用していくかについて考えていくとともに、利用者もいるため、いろいろなことを考慮しながら、どの砂を使っていけるかということを考えていく必要があると思っている。
- ・また、コストも考慮しなければならないため、何が一番いい方法であるかについて検討しているところである。
- ・海岸を維持していくためには今後も年間3万 m<sup>3</sup> ぐらいの養浜は必要であり、関係者と協議しつつ、検討していく必要があると考えている。

#### [参加者]

- ・今日は、砂浜が成長しているといった、いい話が沢山聞けた。
- ・宮崎港に砂が溜まっているが、砂の溜まり具合はどうなっているのか教えて欲

しい。

#### [事務局]

- ・（右図(第6回効果検証分科会参考資料1 p6-35)をスクリーンに投影して説明) 宮崎港に溜まっている土砂量の経年変化(赤線)をみると溜まっている傾向にあるが、最近少し堆積傾向が鈍化しているのとみることできる。一方、住吉海岸(破線)を見ると侵食傾向にあるが、こちらのほうも少し侵食が鈍化しているようにも見える。

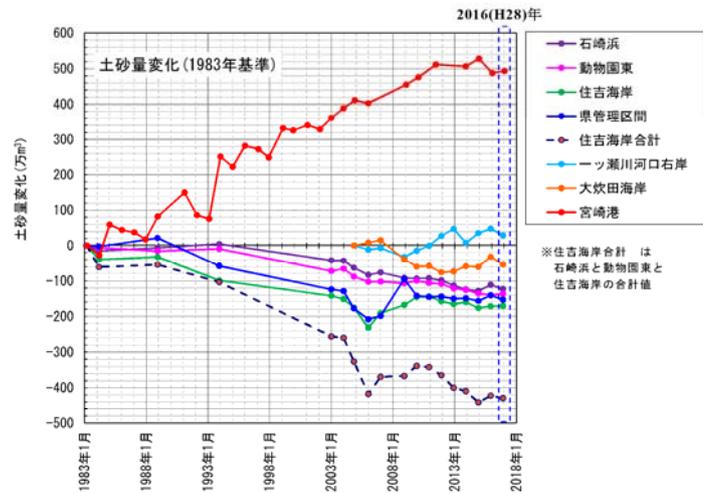


図 宮崎海岸周辺の長期の土砂量変化

- ・いずれの傾向についても現時点では断定的なことは言えないが、長期的に見ると宮崎港周辺では堆積傾向であると言える。

#### ○これからについて

##### [参加者]

- ・一般の方が気軽に入ってこられる海岸になって欲しい。今日見た現場では、砂浜がだいぶ回復してきている状況を確認できたと思う。部分的ではなくて全体的に砂浜のある延長がどんどん伸びてくれば、人も近づきやすくなり、浜に人が戻ってくると思う。このような観点からも、着実に整備が進められればいいと感じた。

##### [コーディネータ]

- ・海浜植物や貝・魚などの観察会をしたい、という意見(無記名)がある。今日、みんなで現地を歩いたから確認できたことはたくさんあり、それが生き物であったり、植物であったり、いろいろなテーマでいいと思うので、少しずつ海岸のことをみんなで見て、触って、今の海岸の状況を実感していくという取り組みが大切になってくると思う。
- ・観察会や、砂浜をどのように使っていくかという議論をこれから談義所でできればいいと考えている。

[参加者]

- ・建設省の初代海岸課長の豊島先生は、草を生やして一人前、天然の砂浜に勝る海岸保全施設はない、草を大事にしろと述べている。関連書物もあると思うので、植生を生かした海岸づくりをお願いしたい。

**～コーディネータのまとめ～**

[コーディネータ]

- ・今日、現地を見ていただいた様子をみんなで共有して事業の効果を確認すると同時に、現地で生じた疑問やこれからのことを談義した。その中で、土砂管理のような難しい問題や、海岸が利用できる状態になってきたのでみんなで話し合っって市民側でできることを考えていくことなど、海岸侵食対策事業と談義所は次のステップに来ているとコーディネータとして感じた。
- ・本日は、市民と、行政の国交省・県・市、実際に調査しているコンサルタントが参加し、市民、行政、専門家のトライアングルで現地を見て談義できたため、非常に有意義な談義所になったと感じている。

以 上

付箋紙に書いて頂いた市民の意見（1/2）

分類	記載内容
養浜	着浜砂についてガリ侵食している材料に粘土分を含んでいるのではないかと
	砂にコンクリートガラも混じっていた。養浜材料をきちんと選ぶ必要があると感じた
	養浜の砂はどこから？同じ成分なのですか？
突堤	現在の浜崖の頂部は残りがわずかしかなかった（すぐ後ろが低い）
	侵食を初めて見て、えぐられている感じとかがよくわかった。
	浜の斜面の角度が急だった
	早期に延長する取組み？状況？
	突堤施工周辺には砂の堆積が確認されていないが水際対策が必要ではないか
地形	高さが低くなった→海に流れる→亀の天然孵化がなくなるのでは
	遠浅な砂浜だということを知ることができた
	浜幅 100mの位置でも浅いこと
	砂浜が思ったより遠浅になっていることがわかった。
	砂浜が狭くなった(なくなった場所もある)
	遠浅の海岸で碎波し、砂浜が安定している
	100m以上の沖側でも立てるくらい浅くて砂がついているなど感じた
	意外と遠浅な砂浜でした(沖方向にどこまで観察すべきか？)
	海岸線は直線化しているがそのまま行けるのでしょうか？
	北側と南側だけ浜が狭くなってたが、なぜ計測した箇所だけ残っているのか疑問に感じた
	①大炊田海岸の浜幅は5～6年前に比べ回復した。 ②回復理由は何か？
基線から100mまで遠浅だったがあと30m程度は同じくらいの水深だったように感じた。	
土砂管理	流砂系 一ツ瀬川の左岸から右岸への砂輸送の考え
	砂浜の回復状況について ・着工前の横断形 ・現況の横断形 ・昔の横断形 3通りの地形を比較
	砂の供給が足りてない
	流出した砂はどこへ？
	H39年以降の養浜はどうするのか
埋設護岸	陸から砂浜が連続している箇所が一部であり、ほとんど埋設護岸が露出しているように感じた
	侵食箇所と回復している箇所の違いが気になりました。
	埋設護岸の大切さを目で感じる事ができた
	サンドバックが露出している所と砂がかぶっている所とあったが露出した理由は？
対策・外力	浜崖の後退がSPによりようやく止まったと感じた。
	風波の対岸距離をどの程度に見積っていますか？ 日向灘は外海であり高波が直接陸地に打ち寄せるために高波を止める工夫(沖合にテトラの設置)はどうか

付箋紙に書いて頂いた市民の意見（2/2）

分類	記載内容
植物・生物	養浜区間でのウミガメの産卵箇所数が今年が多かったそうだけど、その理由は？
	SP上の砂地にスナガニの巣穴が多数みられました。
	植生が前進したと思い効果を感じた（SP前）
	海浜植生の生育が以前より進んでいた
	浜崖上にウミガメが上陸している点は良いと思った。
	海浜植物（ハマゴウなど）が増えているように感じます
	海浜植生の生育が以前より進んでいた
	植物（特に、シバ）がかなり海の方まで覆っている。もっと覆って安定してほしい）
	自然海岸に近い景観になっています
	浜崖の頂部は植生が安定している？（ハマゴウが咲いていた）
	養浜の上に植物が回復している
ゴミ	宮崎海岸はゼロエミッションのはずがゴミが多い？ 漂流物が思ったより少なく感じた。
	ゴミが多量に漂着していたがこれの清掃を市民参加で行うようにできないか。（例・市民一斉清掃の重点区域とする。市民意識の高揚）
海の様子 （今日）	見学したエリアは特に砂浜が前進したと感じた（離岸流ポケット？）
	測定した箇所はサンドパックが露出しておらず遠浅化しており、砂浜が思いのほか回復しているのではと感じました
	計測した箇所については、ほぼ50mの目標は達成しつつあるのかなと感じた。
	本日の視察箇所は海浜が100mほどに回復され事業の効果が見られる。動物園東側も回復を期待したい。来年の地元祭りが楽しみである。
	かなり沖合に茶色い海面の境目が見え、そこまで砂が動いていることを実感した。
	浜幅50mの位置が現地でも示してもらいわかりやすかった （談義所の皆さんで）現場を見るのは良い取り組み
	埋設護岸、養浜工の効果が実感できた。
	浜幅が広がっている。（復旧している）
	昔どのくらいまで砂浜が広がっていたのか知らないのですが体感しづらいところはあるが少しずつでも回復してくれば良いと思います。
	見た目以上に遠くまで水深が浅くなっていた。
	海中の濁りを見ると浅い沖合が先の方までせり出しているのが観察できた。
復元50mは少ないと思ったが現場確認して50mで充分です。資金も掛かるから。	
現地で見る50mは想像した長さ（幅）より短く感じた。	
目標としている50mが思っていたより遠かった。（幅広だった）	
むかし	昔は貝殻が沢山あったのに現在はほとんど有りません。何故ですか
	以前（H5～10年？）は二枚貝（コタマ貝）の宝庫であった
	70年代以降までとれた貝（スワプト）今はどうなっているか？
	60年代終わり頃地元の子が運動会をする位砂浜が広がっていた
これから	一般の方が気軽に入ってこれる海岸になってほしい
	海浜植物やカニ、魚などの観察会もしたいですね。